

米国の大統領選挙が終わり、市場の中で目立つ分野の多くでリターンが前倒して発生しました。2025年に向けて、ベータ（市場全体の動き）を追いかけるのではなく、アルファ（個別の銘柄や戦略での超過リターン）に注目して参ります。近いうちに市場見通しレポートを公開する予定です。

米国の大統領選挙はドナルド・トランプ氏が選挙に勝利し、一般投票でも強い支持を得ました。選挙前にはトランプ氏の大統領就任がコンセンサス（予想の一致）となっていました。共和党が上下両院を制した「赤の一扫」は当初それほど明確ではありませんでした。トランプ氏の経済政策、特に関税の実施方法に関して、主要な政府ポストへの過激な人事案が懸念を引き起こしました。しかし、ロバート・ライトハイザー氏が米国通商代表に就任しない決定や、財務長官にスコット・ベセント氏が指名されたことが発表されると、市場の懸念は和らぎました。ベセント氏は市場を安心させ、積極的な財政政策の推進を抑え、予算赤字の削減に向けて導く可能性が高いと見られています。

金利市場では、この動きが選挙日当日に長期金利やインフレ期待（ブレイクイーブン）の上昇として現れましたが、その後、月末までにどちらも低下しました。

図1：米国30年国債利回り（2024年11月～12月）

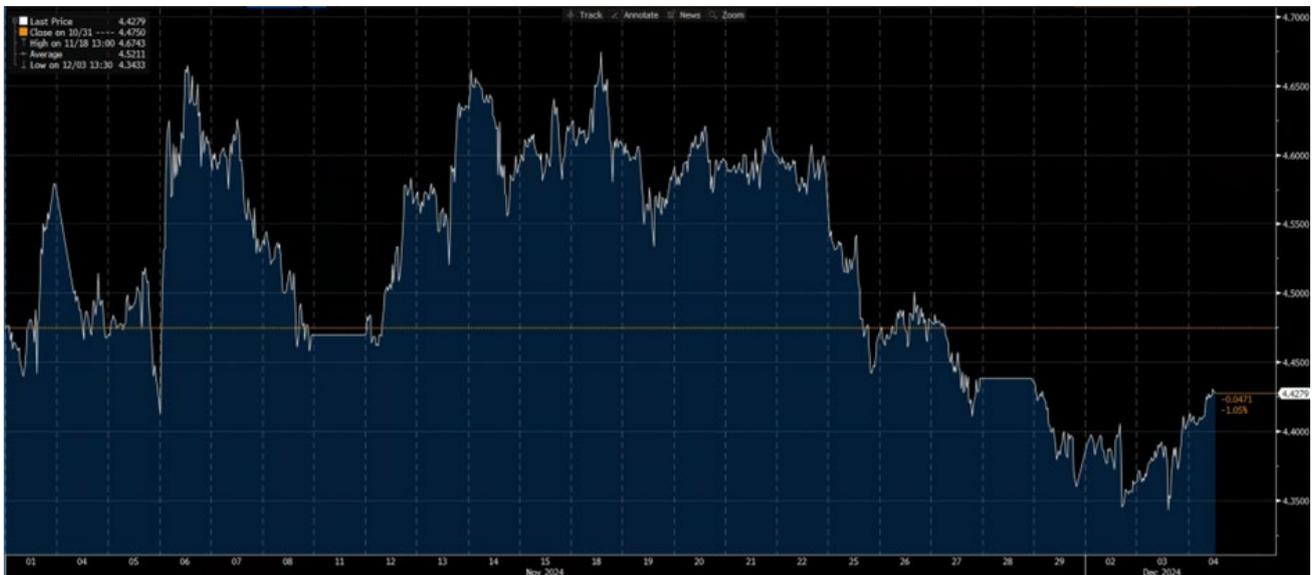
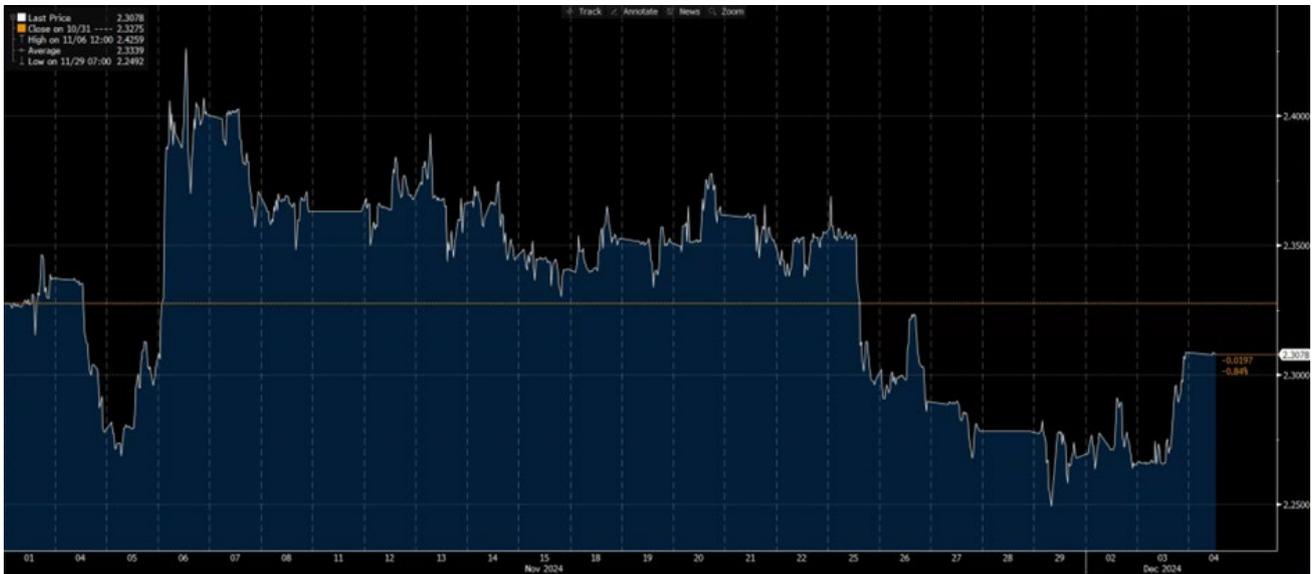


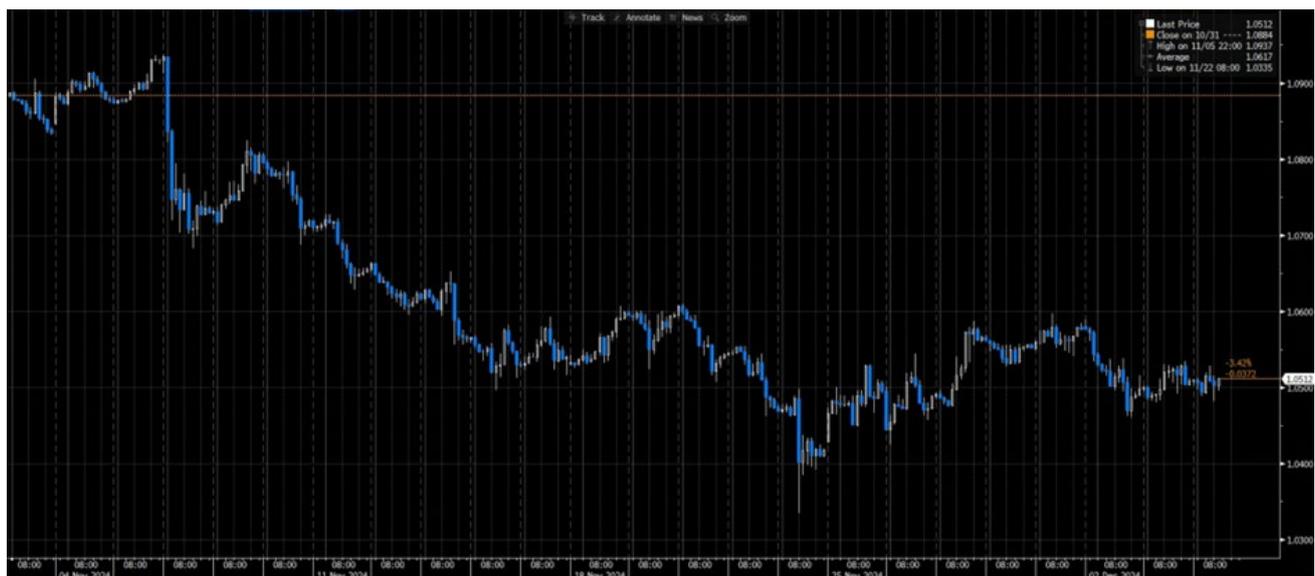
図2：米国10年ブレイクイーブン・インフレ率（2024年11月～12月）

（注：ブレイクイーブン・インフレ率とは、名目国債と物価連動国債の利回り差で表され、市場が予測する将来の平均インフレ率を示します。）



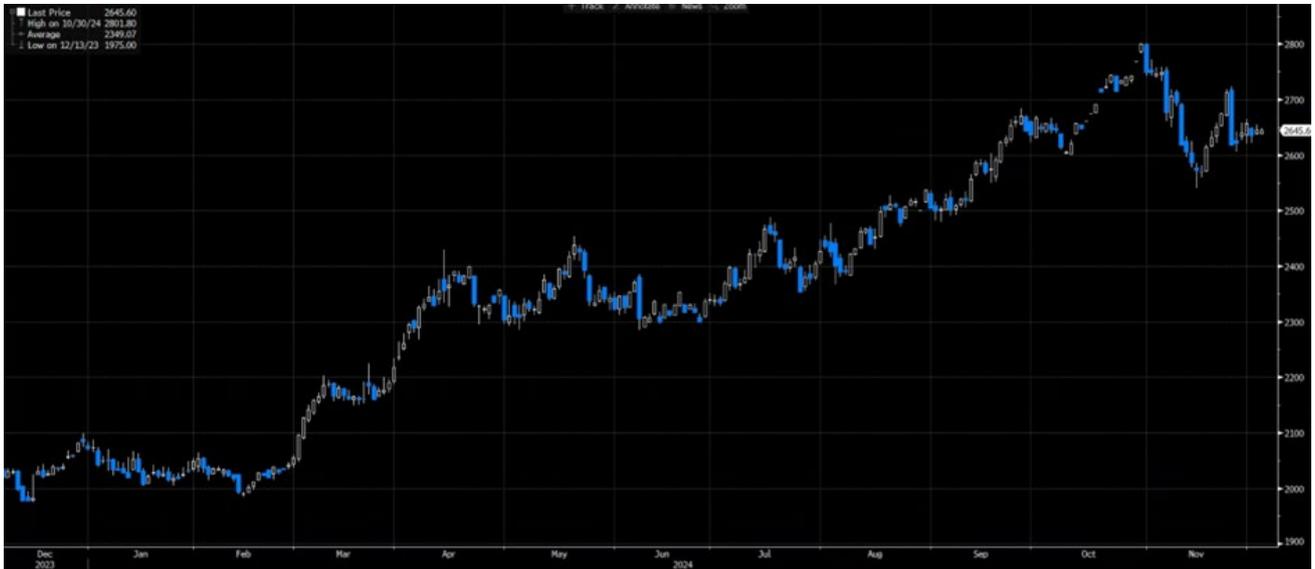
米ドルは1.69%上昇し、特にユーロ（EUR）や中国人民元（CNH）といった市場のコンセンサストレード（広く取引されている通貨ペア）に対して顕著な動きを見せました。この背景には、トランプ政権の強硬な関税政策の可能性がある一方で、FRB（米連邦準備制度理事会）が利下げの頻度や幅を見直し続けていることも影響しています。一方、ECB（欧州中央銀行）はPMI（購買担当者景気指数）などの弱い経済指標を受けて、着実に利下げの道を進んでいます。

図3：ユーロ/米ドル（EURUSD）の推移（2024年11月～12月）



一方で、金（ゴールド）の価格は大幅に下落し、金鉱株（ゴールドマイナー）はさらに急落しました。一方、ビットコインは規制緩和や銀行離れといったテーマの影響を受け、価格が10万ドルに迫る勢いで上昇しました。

図4：金価格の推移（2023年12月～2024年12月）



株式市場では米国株が引き続き上昇し、S&P500指数（SPX）は+5.73%、ナスダック100指数（NDX）は+5.23%を記録しました。米国の「例外的な強さ」というテーマが市場を支えています。

セクターやテーマごとの注目すべき動きは以下の通りです：

- **金融セクター**は規制緩和を受けて大幅に上昇し、地域銀行指数（KRE Banks）は+14.89%を記録。
- **景気循環セクター**と**防御的セクター**の格差が拡大。
- **ソフトウェア株**は低い保有比率にもかかわらず、半導体株を上回るパフォーマンスを見せた。
- **ヘルスケアセクター**は11月に純売却され、引き続き市場全体に遅れをとっている。

ヘッジファンドは共和党の勝利に関連する銘柄を一時的に積極的に買い上げましたが、その後、米国市場内でより流動性の高い銘柄に再びポジションを戻す動きを見せました。